

"分人"型社会とAI

武田英明

国立情報学研究所

takeda@nii.ac.jp

あらまし

- “分人”の発生
- 分人型社会の提案
- 分人型社会に必要なこと

“分人(dividual)”とは

- Humanismにおける個人(individual)との対比で定義
- 文化人類学における分人(1977～)
 - 生起の原因：モノ（サブスタンス）を介した関係に依存
 - 分人の位置付け：人の振る舞いに対して重複的、重層的
- 平野啓一郎氏の分人(2012)
- 心理学・社会学における多次元的自己(1991～)
 - 生起の原因：人のあり方そのもの、社会構造
 - 分人の位置付け：人の振る舞いを分割
- ドゥルーズの分人(1995)
 - 生起の原因：管理社会による人の把握
 - 分人の位置付け：人は細かくフラグメント化

人類学における“分人“

- 人を構成するサブスタンスのやりとりから作られる関係的で生成的な人のあり方
- 個人を所与のものとしなないことで、人間存在を問い直すための概念

人類学における“分人“

- 南アジア民族研究

- M. マリオット(individual/分人の提唱 1977)[Marriott1977]
 - 非西洋的な概念にとらわれない人のあり方の模索
 - サブスタンス-コードで構成される人は分割可能である
 - 混ざり合い変容するサブスタンスの動態・流動性
 - 一元論vs.二元論

人類学における“分人”

- メラネシア民族研究

- ワグナー[Wagner1986]、ストラザーン[Strathern1988]

- 人格

- モノの関係性の帰結

- サブスタンスの共有で結ばれる複数の関係性の結節点

- 例) ある人はクランの代表者、姉妹の夫、豚の所有者である
(複数の分人)

- 例) 豚の所有者であるという分人=その豚はその人と豚を育てる妻の間の婚姻関係、あるいはその豚を贈与した人との交換関係に由来する

- “「分人」という考え方は、「個人」というカテゴリをア priori に想定することが適切でないという問題に対する(暫定的な)答えである”(ストラザーン)

平野氏の分人

- 本当の自分とは何か
 - 会う人やコミュニティごとに違う振る舞いをする「私」は「私」を偽っているのか。
 - 否、それぞれの関係における「私」はみな「私」である。
 - その単位を分人と呼ぶ。
- 本当の自分とは、一つ一つの分人である
 - 関係ごとに分けられた分人
 - 関係ごとの分人によって、「私」は分けられている。「私」はその総体である。
 - 分人が関係によって生じ、関係によって消える。
 - 分人は関係とともにある。
- 「私とは分人(の集まり)である」と考えることにより、生きやすくなる。

多元的自己

- 単一の自己(古典的心理学)
 - アイデンティティの形成には、それまでにおいて形成してきた自己をその共同体で承認されるような単一の自己へと統合することが必要 [Erikson1959][藤野2021]
- 多元的自己
 - 「どれもがどれも本当の自分らしい[浅野1999]」
 - 「複数のidentitiesがゆるやかに束ねられたかたち[辻1999]」

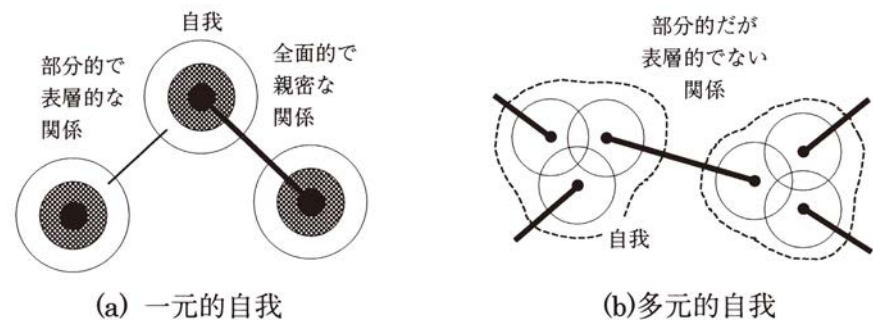


図1 自我構造の2つの模式図

多元的自己

- 自己複雑性(Self-complexity)[Linville1985,1987]
 - 自己のもつ側面の数、自己が分化している程度
 - $SC = \log_2 n - (\sum_i n_i \log_2 n_i) / n$
 - n : 自己側面の数, n_i : i 側面の特徴数
 - 自己複雑性が高いほど、否定的感情が他の側面に影響を与えず、ストレスから生じる否定的感情に対してのバッファ（緩衝）になる。
 - メタ分析では、バッファ効果へのサポートはとてま少なく、むしろ抑圧的效果と関係するとも[Rafaeli-Mor2002]

多元的自己

- 時代的な変化

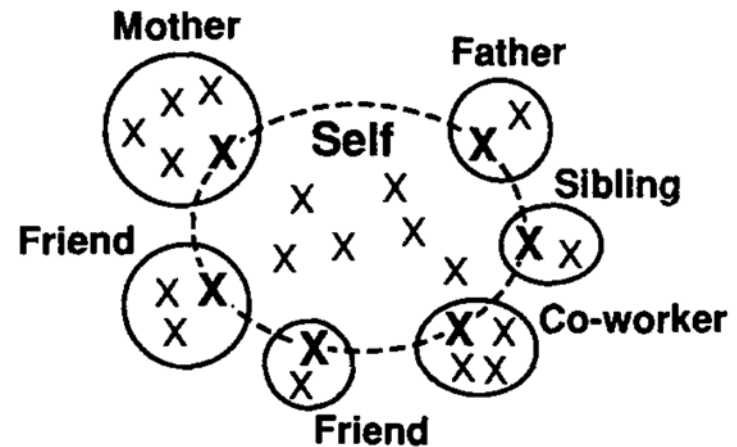
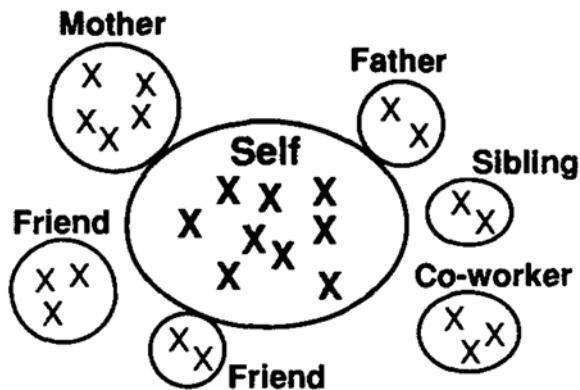
- **1960年代～1980年代前半**までに学生時代を過ごした世代のこのころの構造は、[...] 近代人のこのころの構造論に沿って理解することが可能である。近代のこのころとは、唯一の自我が、さまざまな衝動をコントロールして人格の統合性を保ち、意識すると葛藤が起きて都合の悪い欲求や傷つきは、無意識の領域へ抑圧するという図式で表される。
- 一方、**1980年代末以降**に学生時代を過ごす世代のこのころの構造は、自我の統合性が相対的に希薄で、このころの中で混じると都合の悪い要素は衝立で仕切るように切り離し（それを心理学の用語では「解離」と呼ぶ）、ばらばらのまま併存させているという図式で表される。[高石 2009]

多元的自己

- 西欧 vs アジア(日本)

[Markus 1991]

- 独立的自己観(independent construal of self)
- 相互依存の自己観(interdependent construal of self)



平野氏の分人と多元的自己

- 心理学及び社会学での多元的自己はあくまで人の内面のモデルとして導入されたものである。
- 平野氏は、個人に対比する形で分人を定義し、個人に代わる存在として位置付けている。
- 分人は個人の内面にも存在し、それは多元的自己に対応する。
- しかし、分人を相手にも認めさせる、すなわち社会的にも存在する（させる）ことを要請している。→「分人主義」の宣言
- この点において、大きな変化をもたらしている

ドゥルーズの分人

- 「追伸- 管理社会について」
 - 規律社会
 - 複数の監禁環境の移行
 - 例) 家族→学校→軍隊→工場
 - 時空間内に人間を配置、秩序づけることで、単なる総和以上の生産力を組織すること
 - 管理社会
 - 恒常的な管理と瞬時のコミュニケーション
 - 例) デイケア、在宅医療、テレワーク
 - 恒常的な準安定状態に人間を置くことで、分断、相互敵対をさせ管理すること。

ドゥルーズの分人

- 「追伸-管理社会について」 [ドゥルーズ1992]
 - 規律社会
 - 個人=署名/群れの登録番号
 - 鋳型/鋳造作業
 - 規律社会は個人と、個人が所属する群れとを同時に形成する。
... 個人とはそもそも、「群れにおける〇〇番」の鋳型にはめられた様態と考えられる。
 - 管理社会
 - 分人=数字/データバンク
 - 変調/自己変形
 - 管理社会は「情報へのアクセス」を示す「数字」と紐づいた「分人」を管理対象とする。例えばあるパスワードと紐づいたsnsアカウントを想定したい。各サービス毎にアカウントが区別され、サービス毎の運用が求められる。... 分人は自己変形的に変調する。

ドゥルーズの分人

- 「追伸-管理社会について」
 - 分人の概念評価
 - 個人は群れと同時形成
 - むしろ「組み込まれた人格」という考え方は、ドゥルーズの個人に該当
 - 人格ではなく、社会モデルが想定する単位
 - 権利が作用する社会モデルの議論
 - 分人とは管理の対象
 - 分人として管理される我々がどう抵抗できるかが問題
- ドゥルーズの管理社会は、現在進行中のデジタル社会に相当するものであり、そこでの人の管理の方法、デジタルデータで人を管理するという方法よっては捉えられるものが分人。なので、他の分人とは異なる概念である。

「分人」のまとめ

- 人格、自己は分割可能
 - 人は分割不可能な唯一の「個人」でなく、複数に分割された「分人」からなる。
 - 分人に優越性はない
- 人は関係によって作られる
 - 分人は関係と不可分
 - 個より関係、社会を第一義に考える
- 非(脱)西欧的概念
 - 人類学における非西欧地域研究における概念
 - 日本における「個人」概念の違和感

分人型社会システム

- ここまでのまとめ

- 分人は社会における人間のありようとして存在する
 - 心理学、社会学的分析、人類学的観察
 - 主に社会的関係がその存立に寄与している。
- 個人の分人化はIT化以降、加速している
 - 個人観の変容
- 個人の分人化は不可避

- 提案

- 分人**化**社会を受け入れるのではなく、分人**型**社会をつくるべき

分人型社会の期待される効用1

- 社会の成員の増加
 - "人口"を2倍も3倍にできる
 - 人の能力を最大限活かす
 - 人の能力のSharing economy
 - 過度な集中からの不利益の緩和
 - 集中からの逃げ口

分人型社会の期待される効用2

- 新しい**Well-being**の創出
 - より柔軟な人生
 - より多くの関係、より多くのコミュニティとのつながり
 - 異なる体験
 - 変化の許容
 - より多様な社会
 - 多様な様相のコミュニティの是認
 - さまざまな障壁（国、人種、性別、年齢など）を低くする

「分人・複属」と電子行政

国際大学 GLOCOM

准教授 主任研究員 庄司 昌彦

1. より「個人」を単位とする
社会へ向かう日本

2. 「単一社会」から「属」へ

3. ソーシャルメディアと
グループ形成ネットワーク

4. 「個人」から「分人」へ

5. 「分人・属」の子行政への導入

6. 日本国内への応用

行政&情報システム, 51(4), 55-59, 2015

日本経済新聞 2019年5月20日

**副業解禁、主要企業の5割
社員成長や新事業に期待**

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO45004150Z10C19A5MM8000>



REPUBLIC OF ESTONIA
E-RESIDENCY

Become an e-resident

Start a company

Run a company

Resources

Events

Marketplace

APPLY NOW!



Become an e-resident

When you join Estonia's digital nation, you can start a company 100% online, run your EU business remotely, and eliminate paper and bureaucracy. Apply for your digital ID from e-Residency today.

APPLY NOW

COVID-19

Join our upcoming introductory webinars

Part 1: Applying for e-Residency
Part 2: Starting your company in Estonia with e-Residency

See more



consultants

People from

165

countries have applied for e-Residency

70,000

people have applied for e-Residency

分人型社会の期待される効用3

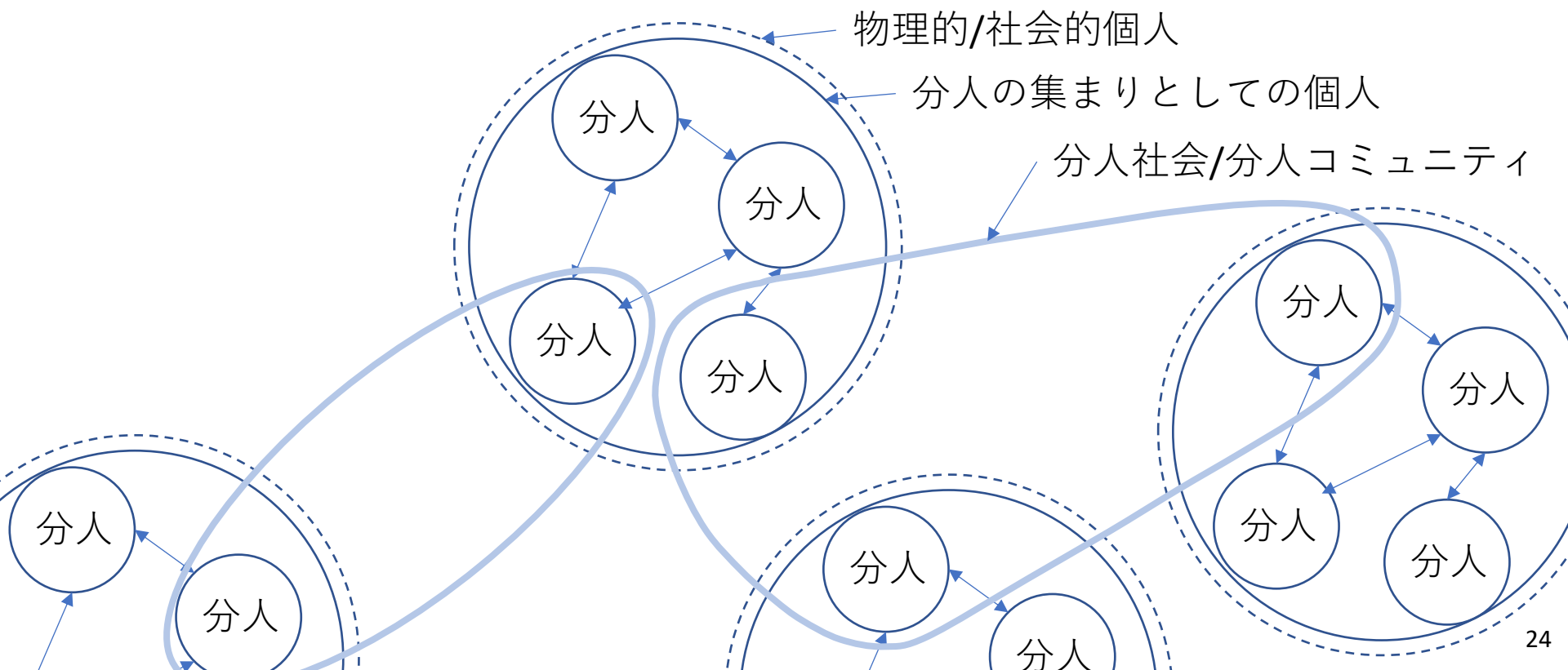
- AI/人工物との共同作業の促進
 - “マインドサイボーグ”
 - “分人bot”
 - フェルベークによる人の拡張として人工物[フェルベーク2015]
 - 人と技術（による人工物）が一体となって、一つの存在
 - 個別の社会的役割において人とAIの密な共同作業
 - 特定の社会的役割に制限することにより、人は安心してAIに任せられる。また、AIも特定の目的に特化することで効率を上げることができる。

り ん な と Tay



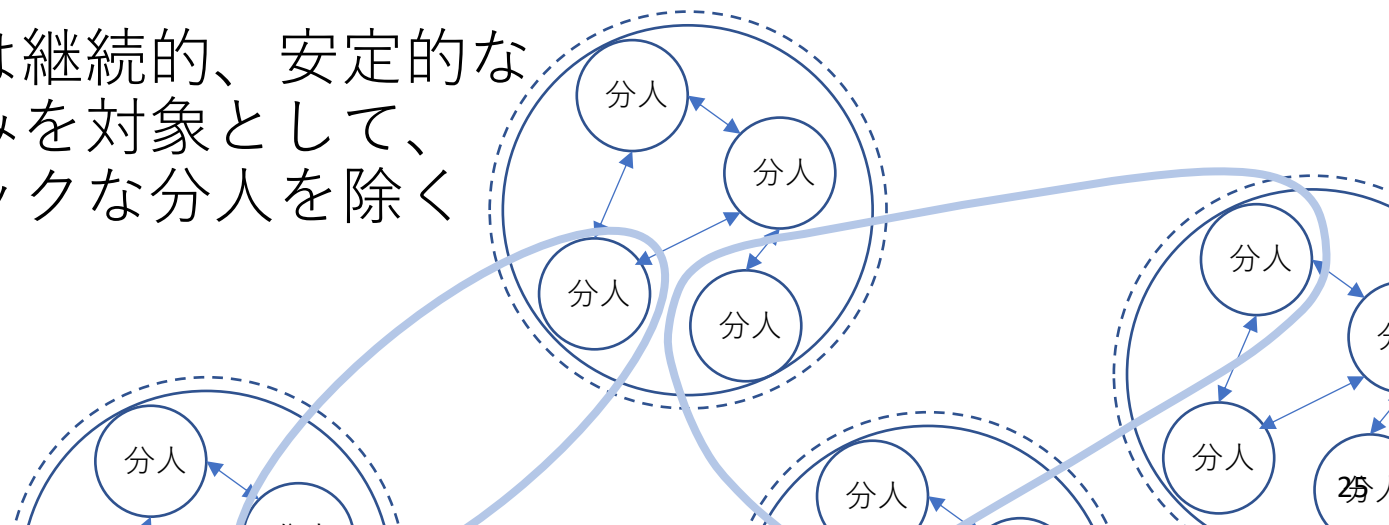
分人型社会の構造

- 分人
- 分人の集まりとしての個人
- 物理的/社会的個人
- 分人社会/分人コミュニティ



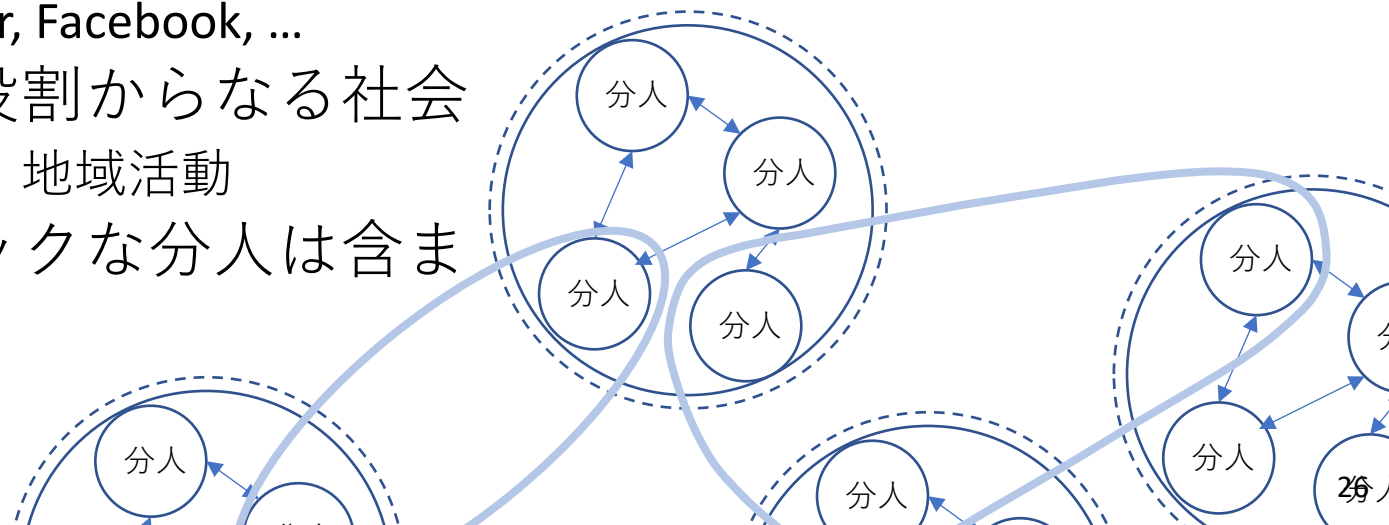
分人型社会の構造

- 分人：他者や（分人）社会との関係性において存在
- 分人の集まりとしての個人は物理的/社会的個人と概ね一致
- 分人社会/分人コミュニティ：分人を成員とする社会/コミュニティ
 - 以下では継続的、安定的な分人のみを対象として、アドホックな分人を除く



分人社会

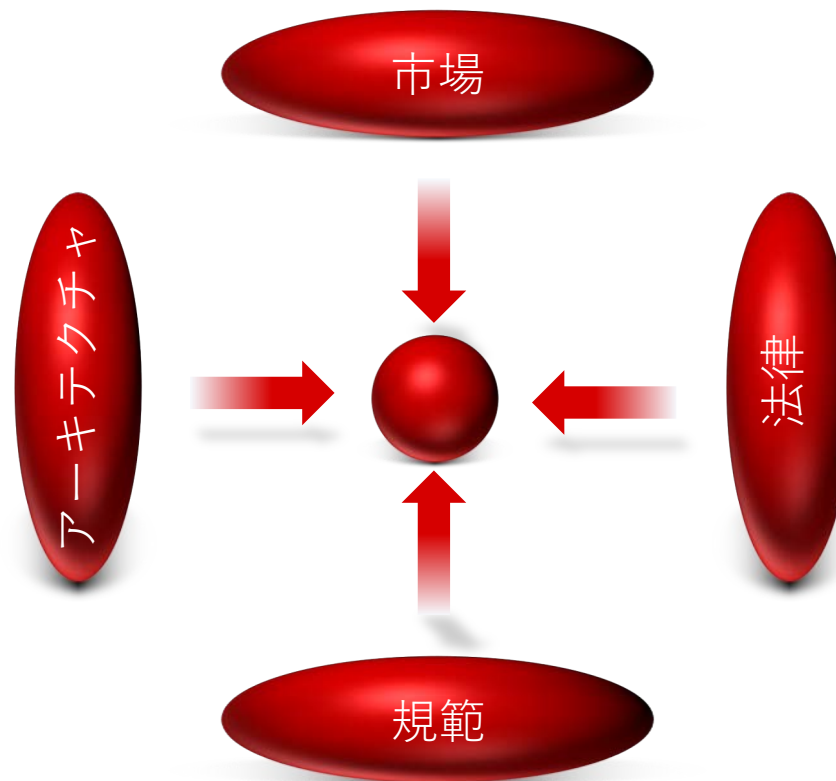
- 多くの現存するコミュニティも分人的性格
 - 職場、趣味の集まり、同窓会、...
- 分人社会
 - 分人コミュニティのうち、一定の規模、仕組みがあるもの
 - SNSはそれ自体が分人社会
 - Twitter, Facebook, ...
 - 社会的役割からなる社会
 - 職場、地域活動
 - アドホックな分人は含まない



レッシグのPathetic dot theory

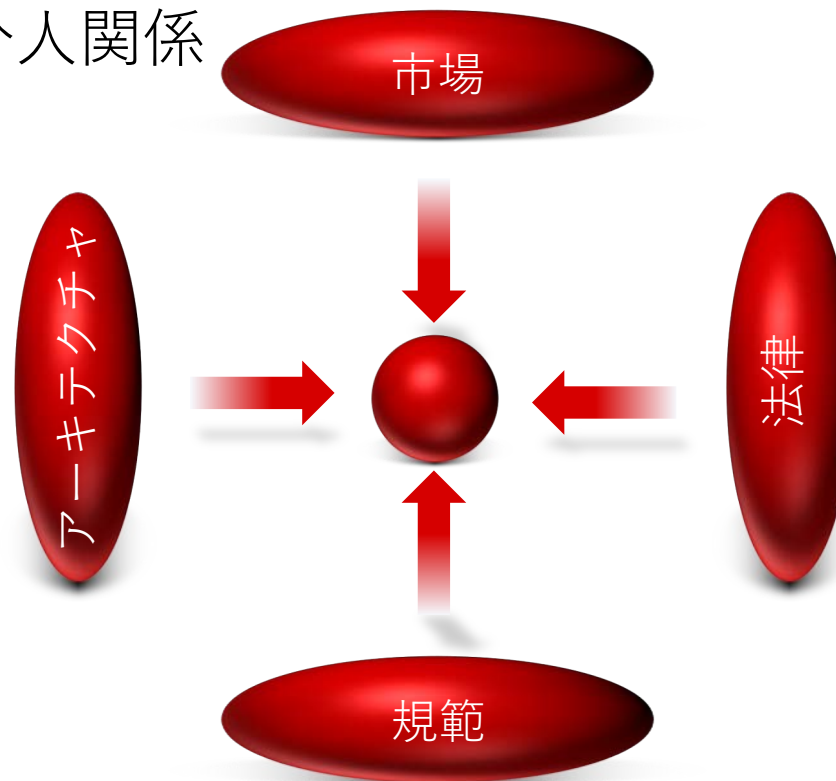
[Lessig1999]

- “個人”を規制する4つの制約
- 分人型社会に適用するすると...



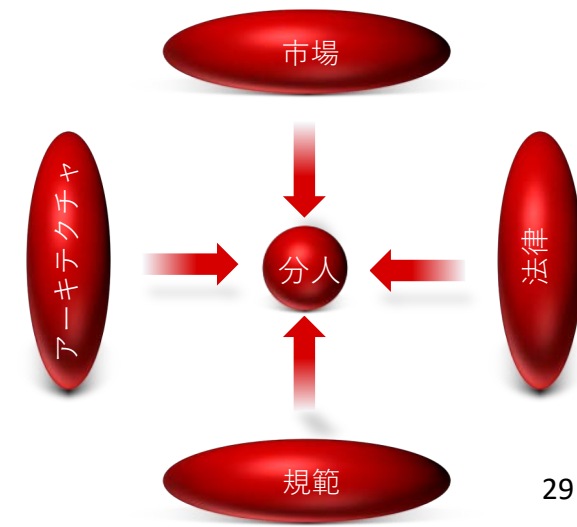
レッシングのPathetic dot theory

- 3つのdot
 - 分人社会
 - 個人-分人関係
 - 分人-分人関係



分人社会における4つの制約

- SNSなどITプラットフォームによる分人社会（閉じた社会）
- 4つの制約
 - アーキテクチャ：SNSプラットフォーム
 - 規範：SNSごとの文化
 - 市場：SNS ビジネス
 - 法律：SNS運営ルール
- 課題
 - SNS運営ルールと法律の関係性
 - SNSの”自治“の位置付け
 - プラットフォームの安定性
 - 分人の安定性（持続性、継承性...）

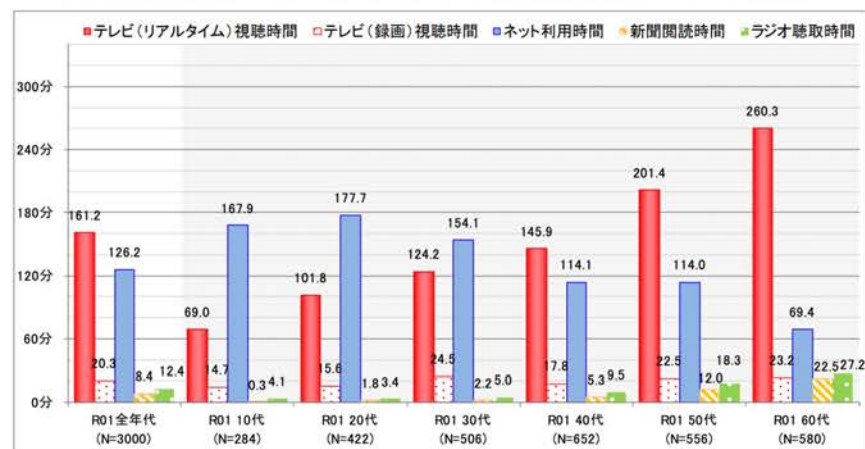


第1章1-1 テレビ、インターネット、新聞、ラジオの利用時間と行為者率②

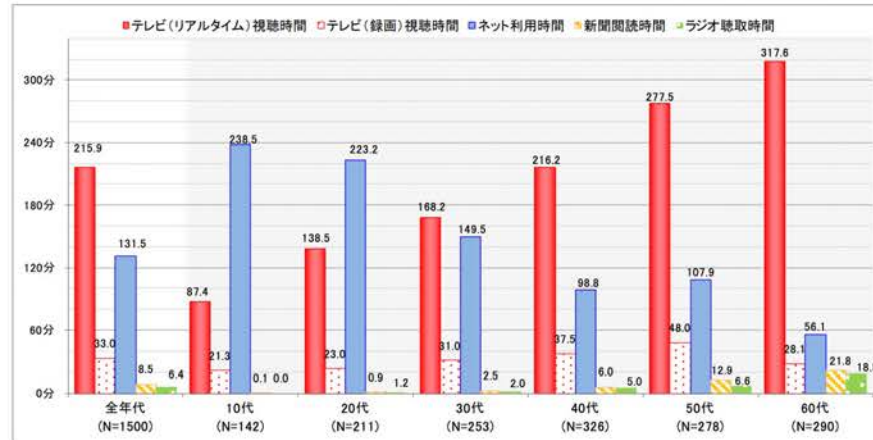
6

- 「インターネット利用」の平均利用時間は、前回平成30年度調査結果から、休日では20代を除く各年代で減少した一方で、平日では30代が調査開始から初めて「テレビ(リアルタイム)視聴」を上回るなど、40代を除く各年代で増加。
- 行為者率について、「インターネット利用」は、前回平成30年度調査結果から、平日では全年代と同様に各年代でも増加。平日の10代では調査開始以降初めて90%を超え、10代から40代までそれぞれ90%超。

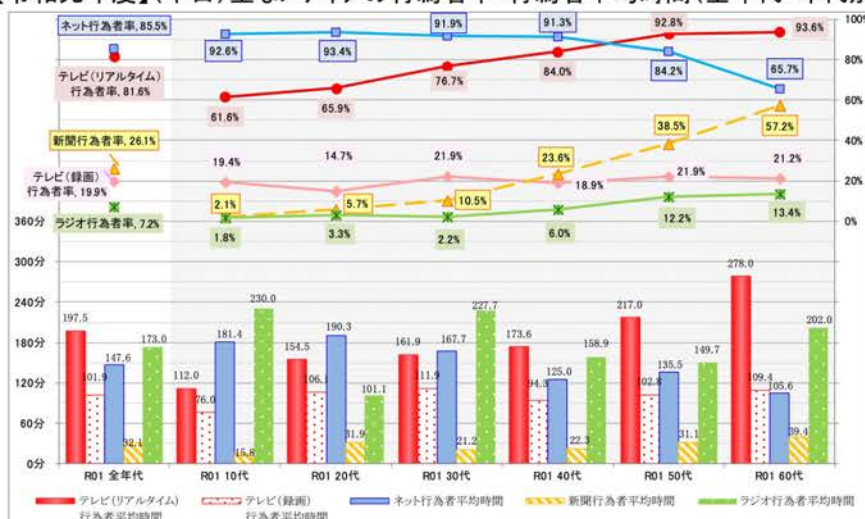
【令和元年度】(平日)主なメディアの平均利用時間(全年代・年代別)



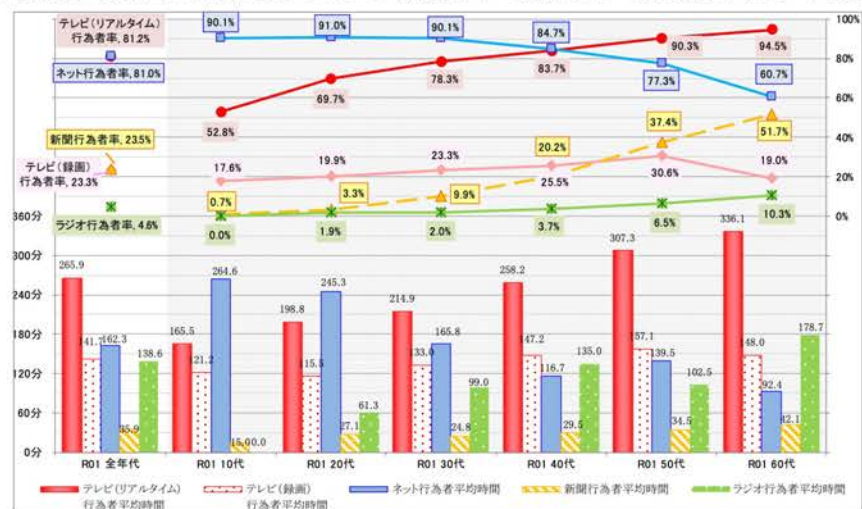
【令和元年度】(休日)主なメディアの平均利用時間(全年代・年代別)



【令和元年度】(平日)主なメディアの行為者率・行為者平均時間(全年代・年代別)



【令和元年度】(休日)主なメディアの行為者率・行為者平均時間(全年代・年代別)



TechCrunch Japan

フェイスブックがトランプ前大統領の利用
を2年間禁止に、有名人の利用禁止措置
ルールも変更

2021年6月05日 by [Devin Coldewey](#), [Nariko Mizoguch](#)

Yahoo! Japan ニュース

トランプ氏停止は支持、だが
Facebookは無責任と「最高
裁」が言う

[平和博](#) | [桜美林大学教授](#) ジャーナリスト

日本経済新聞

メルケル独首相、Twitterを批判 意見表明
の自由重要

2021年1月11日 23:49

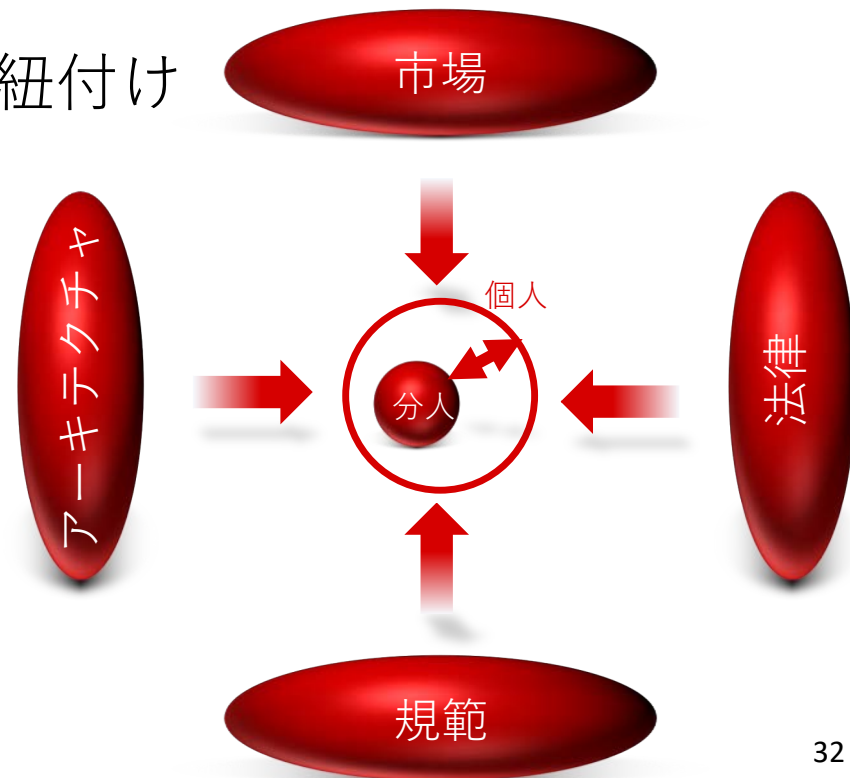
<https://jp.techcrunch.com/2021/06/05/2021-06-04-facebook-will-reconsider-trumps-ban-in-two-years/>

<https://news.yahoo.co.jp/byline/kazuhirotaira/20210506-00236385/>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGN113R30R10C21A1000000/>

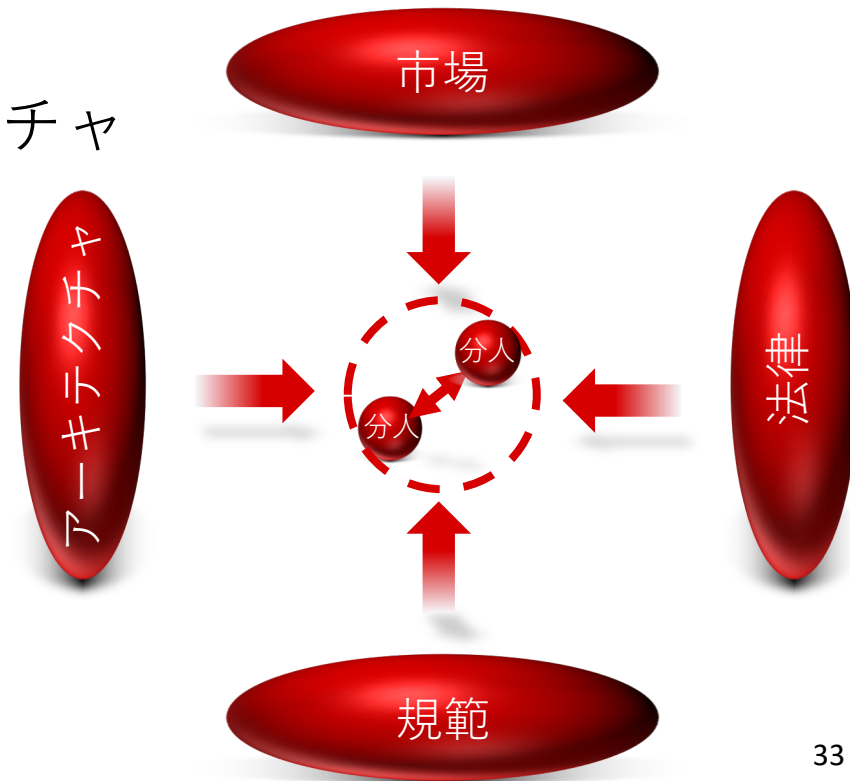
分人-個人関係における4つの制約

- 分人と物理的/社会的個人の関係をどう維持するか
- 4つの制約
 - アーキテクチャ：
社会的IDと分人IDの柔軟な紐付け
 - 規範：分人の社会的認知
 - “身バレ”問題
 - アウティング
 - 市場：“連携ビジネス”
 - 法律：分人の法的位置付け
 - 分人格？
 - 分人と個人の分離の保証



分人-分人関係における4つの制約

- 異なる分人社会の分人間の関係をどう維持するか（オープンな分人社会のつながり）
- 4つの制約
 - アーキテクチャ：
分人ID相互関係アーキテクチャ
 - 規範：“分人型社会規範”
 - 個人を前提としない/必要としない社会規範
 - 市場：？
 - 法律：？



まとめ

- 社会の分人化
 - 非西欧認知
 - 工業化社会、情報化社会の帰結
- 分人型社会の構築の提案
 - 分人型社会の積極的肯定
 - ベネフィット
 - 制度的安定（現実にあわせる）
 - 仮想的人口増
 - 新たな幸福像
 - AIとの融合
 - 課題
 - 技術的課題
 - 多くは解決可能。安定性や相互運用性は課題
 - 文化的課題
 - 多くは受け入れ済み。伝統的文化・社会との棲み分け
 - 法的課題
 - 分人の”認知”
- 真のSociety 5.0?
 - 日本的/アジア的アプローチとして先駆者になれるか

参考文献

- [中空2016] 中空 萌,田口 陽子:人類学における「分人」概念の展開:比較の様式と概念生成の過程をめぐって,文化人類学, 日本文化人類学会, 2016,81,1,80-92
- [Marriott1977] Marriott, McKim and Ronald B. Inden: Toward an Ethnology of South Asian Caste Systems. In The New Wind: Changing Identities in South Asia. Kenneth David ed. , pp.227-238. Mouton, 1977
- [Wagner1986] Wagner, Roy: Symbols that Stand for Themselves. University of Chicago Press. 1986
- [Strathern1988] Strathern, Marilyn: The Gender of the Gift. University of California Press. 1988
- [平野2012] 平野 啓一郎: 私とは何かー「個人」から「分人」へ, 講談社, 2012
- [Erikson1959] Erikson, E. H. Identity and the life cycle,1959, (西平 直・中島 由恵 訳『アイデンティティとライフサイクル』, 誠信書房, 2011)
- [藤野2021] 藤野 遼平: 後期近代における自己の多元化の傾向とアイデンティティ理論に関する動向と展望, 大阪大学教育学年報, Vol. 26, 51-62, 2021
- [浅野1999] 浅野 智彦: 親密性の新しい形へ, 富田 英典, 藤田 正之 編『みんなぼっちの世界ー若者たちの東京・神戸90's展開編』, pp. 41-57, 恒星社厚生閣, 1999
- [辻1999] 辻 大介: 若者のコミュニケーション変容と新しいメディア, 橋元 良明, 船津 衛 編『子ども・青少年とコミュニケーション』, pp. 11-27, 北樹出版, 1999
- [Linville1985] Linville, P. W.: Self-complexity and affective extremity: Don't put all of your eggs in one cognitive basket. *Social Cognition*, 3(1), 94-120, 1985
- [Linville1987] Linville, P. W. : Self-complexity as a cognitive buffer against stress-related illness and depression, *Journal of Personality and Social Psychology*, 52, pp. 663-676, 1987
- [Rafaeli-Mor2002] Rafaeli-Mor E, Steinberg J.: Self-Complexity and Well-Being: A Review and Research Synthesis. *Personality and Social Psychology Review*. 2002;6(1):31-58, 2002
- [高石2009] 高石 恭子: 現代学生の心の育ちと高等教育に求められるこれからの学生支援, 京都大学高等教育研究 , 15, 79-88, 2009.
- [Markus1991] Markus, H. R., & Kitayama, S.: Culture and the self-Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological review*, 98, 224-253, 1991
- [ドゥルーズ1992] ジル・ドゥルーズ: 追伸〜管理社会について, 『記号と事件』, 河出書房新社, 1992
- [内藤2021] 内藤 慧: ドゥルーズ哲学は分人主義なのかーle dividuelを検討するー, 2021年2月24日, https://www.youtube.com/watch?v=F3_6l1vj57U
- [庄司2015] 庄司 昌彦: 「分人・複属」と電子行政, 行政&情報システム 51(4), 55-59, 2015-08, 行政情報システム研究所, 2015
- [フェルベーク2015] ピーター・ポール・フェルベーク: 技術の道德化: 事物の道德性を理解し設計する, 法政大学出版局, 2015.
- [Lessig1999] Lawrence Lessig: Code and Other Laws of Cyberspace, Basic Books, 1999 (山形 浩生, 柏木 亮二 訳, CODEーインターネットの合法・違法・プライバシー, 翔泳社, 2001)
- [武田2020] 武田 英明: [社会を開くツールとしてのWeb](#), 情報の科学と技術, Vol. 70, No. 6, pp. 296-302 (2020).
- [総務省情報通信政策研究所2020] 総務省情報通信政策研究所: 令和元年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書, 2020. https://www.soumu.go.jp/iicp/research/results/media_usage-time.html
- [武田2021] 武田 英明: 学術における永続的識別子としてのDOIのこれまでと今後について, 情報の科学と技術, Vol. 71, No. 4, pp. 177-180 (2021).